

平成28年度事業報告書

I 会務報告

1. 会員の状況について

	正 会 員	準 会 員	計
今期末会員数	2, 8 6 1名	0名	2, 8 6 1名
前年度末会員数	2, 8 8 1名	0名	2, 8 8 1名
増 減	- 2 0名	0名	- 2 0名

支部別会員数は添付諸表資料1のとおり

2. 賛助会員について

1) 団体など

北海道農業共済組合連合会
北海道農業協同組合中央会
ホクレン農業協同組合連合会
(一社)ジェネティクス北海道

2) 個人

なし

3. 名誉会員の推薦について

該当なし

4. 役職員の異動について

1) 役員等

平成28年6月17日、第4回定時代議員会において宮上禎肇理事辞任による役員補欠選任が行われ、横山敦志氏（胆振支部）が選任され、同日就任した。

2) 職員

平成28年4月 清水 秀仁（事務局長） 昇任
平成29年3月 関口 直子（非常勤職員） 退職

5. 日本獣医師会特別委員会、職域別部会委員会委員（本会分）

1) 特別委員会

狂犬病予防体制整備委員会 会長 高橋 徹
マイクロチップ普及推進特別委員会 会長 高橋 徹

2) 職域別部会委員会

◎常設委員会

学術・教育・研究委員会 理事 田村 豊
産業動物臨床・家畜共済委員会 理事 岡本真平

小動物臨床委員会	理事	前谷茂樹
家畜衛生委員会	理事	梶原 渉
公衆衛生委員会	理事	横山敦志
動物福祉・適正管理対策委員会		向井 猛 (札幌市)
総務委員会	専務理事	森 清一

◎個別委員会

獣医師生涯研修事業運営委員会	猪熊 壽 (帯畜大)	苅和宏明 (北大)
野生動物対策検討委員会	武田忠義 (北海道)	福井大祐 (En Vision)
野生動物救護対策の在り方検討小委員会	黒澤信道 (NOSAI 道東)	

6. 代議員会・理事会の開催について

1) 平成 28 年度 (第 4 回) 定時代議員会

日 時：平成 28 年 6 月 17 日 (金)

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

議案第 1 号 平成 27 年度事業報告書および財務諸表について

議案第 2 号 平成 28 年度事業計画および収支予算について

議案第 3 号 平成 28 年度会費などの賦課額について

議案第 4 号 平成 28 年度役員報酬について

議案第 5 号 平成 28 年度借入金の最高限度額について

議案第 7 号 役員の補欠選任について

2) 理事会

【第 1 回】

日 時：平成 28 年 5 月 24 日 (火)

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

< 報告事項 >

1. 職務執行状況報告
2. 北獣関係諸会議
3. 日獣関係諸会議
4. その他諸会議
5. 傷病鳥獣等保護受託業務について

< 議決事項 >

1. 平成 27 年度事業報告書および財務諸表の承認について
2. 平成 27 年度決算監査の結果について
3. 平成 28 年度会費などの賦課額について
4. 平成 28 年度役員報酬について
5. 平成 28 年度借入金の最高限度額について

6. 北獣役員補欠選任候補者の選定について
7. 北海道獣医師会館の新築計画について
8. 平成 29 年度獣医学術学会地区学会の開催日程の変更について
9. 組織基盤強化対策特別委員会の設置について
10. 代議員会における書面等による議決権の行使について

<協議事項>

1. 平成 28 年度（第 4 回）定時代議員会の開催について
2. 北海道獣医師大会、北海道地区三学会の開催について
3. 家畜人工授精師の超音波診断装置利用について
4. 女性獣医師意見交換会の開催について
5. 熊本地震支援の義援金募集および動物救護募金の実施について
6. JICA 産業動物臨床研修について
7. 各部会委員、北獣会誌編集委員、学会役員の交代について
8. その他

【第 2 回】

日 時：平成 28 年 6 月 17 日(金)

会 場：ホテルヤマチ

議 事

<報告事項>

1. 地区獣医師会総会の開催概要について
2. 日獣関係諸会議
3. 狂犬病予防注射事業に係る事故の発生状況について

<協議事項>

1. 平成 28 年度(第 4 回)定時代議員会の開催について
2. 役員補欠選任候補受付の結果について
3. 北海道獣医師会館建設計画（案）の一部修正について
4. 当面の事業推進について
5. 今後の予定

【第 3 回】

日 時：平成 28 年 8 月 31 日(水)

会 場：上川農業会館

議 事

<議決事項>

1. 北海道獣医師大会提案事項について
2. 北獣役員報酬審議委員会の設置について

<協議事項>

1. 北獣会館建設計画について
2. その他

【第4回】

日 時：平成 28 年 12 月 14 日(水)

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 11 月末職務執行状況について
2. 中間監査の結果について
3. 北獣諸会議等開催状況
4. 日本獣医師会関係他
5. 熊本地震支援募金活動報告
6. 平成 28 年度狂犬病予防注射事故発生状況と対応について
7. 天売島における海鳥保護対策の進捗状況について

<議決事項>

1. 獣医学術北海道地区学会運営規程の一部改正について
2. 平成 30 年度地区学会の開催計画について
3. 小動物部会委員の追加委嘱について
4. 第 30 回世界牛病学会の対応について

<協議事項>

1. 新規事業としての食鳥検査受託について
2. 会館建設計画について
3. 役員報酬等に関する規程の一部改正について
4. 平成 29 年度北獣代議員会の日程について
5. 北海道医師会との連携シンポジウムの開催について
6. 戦略特区による獣医系大学新設に係るパブコメ対応について
7. 第 30 回世界牛病学会の開催について
8. 公益法人における経理について
9. 獣医師法 22 条による届け出について
10. 管理システムの進捗状況と今後の予定について
11. 狂犬病予防注射率向上イベントの実施について
12. 日本獣医師会獣医学術学会年次大会について
13. その他

【第5回】

日 時：平成 29 年 3 月 16 日(水)

会 場：会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 2 月末業務執行状況について
2. 北獣諸会議等開催状況
3. 北海道医師会との学術協力の推進に関する協定の締結について

<議決事項>

1. 公益社団法人北海道獣医師会平成 29 年度（第 5 回）定時代議員会の開催について
2. 役員の報報酬等に関する規程の改定について
3. 創立 70 周年事業の実施について
4. 平成 29 年度事業計画について
5. 平成 29 年度収支予算について
6. 福利厚生規程の改定について
7. 北獣役員候補者推薦管理委員会の設置と役員選任の日程について
8. 支部事務局長の変更について
9. 平成 29 年度北獣名誉会員の推薦について

<協議事項>

1. 北獣会館建設計画について、
2. 北獣への寄付金に係る減税と寄附金等取扱規程の制定について
3. 部会規程の改定について
4. 北獣会費と地区獣医師会会費の調整について
5. 北海道医師会との連携シンポジウムについて
6. 狂犬病予防注射事業の推進について
7. 北獣大会・学会の開催計画について
8. 北獣名誉会員名簿の発刊について
9. 4 月以降の本部事務局体制について
10. その他

3) 監 査

平成 27 年度決算監査	平成 28 年 5 月 18 日 (水)	北獣会館	会議室
平成 28 年度中間監査	平成 28 年 11 月 30 日 (水)	〃	

4) 三役会議

第 1 回	平成 28 年 5 月 17 日 (火)	北獣会館	会議室
第 2 回	平成 28 年 7 月 18 日 (木)	〃	
第 3 回	平成 28 年 10 月 7 日 (金)	〃	
第 4 回	平成 28 年 12 月 2 日 (金)	〃	
第 5 回	平成 29 年 3 月 2 日 (木)	〃	

5) 事務局長会議等

役員・事務局長合同会議	平成 28 年 8 月 31 日 (水)	〃	
事務担当者会議	平成 28 年 10 月 4 日 (火)	〃	
事務局長会議	平成 29 年 3 月 8 日 (水)	〃	

6) 各部会、委員会等

産業動物臨床部会	平成 28 年 4 月 22 日 (金)	北獣会館
北獣雑誌編集委員会	平成 28 年 4 月 28 日 (金)	〃
行政部会	平成 28 年 6 月 27 日 (月)	〃
小動物臨床部会	平成 28 年 7 月 13 日 (水)	〃
狂犬病予防注射率向上対策小委員会	平成 28 年 9 月 21 日 (水)	〃
野生動物部会	平成 28 年 7 月 20 日 (水)	〃
組織基盤強化特別委員会	平成 28 年 10 月 12 日 (水)	〃
第 4 回会館建設計画検討特別委員会	平成 28 年 10 月 26 日 (水)	〃
第 5 回会館建設計画検討特別委員会	平成 28 年 2 月 8 日 (水)	〃
役員報酬審議委員会	平成 28 年 11 月 16 日 (水)	〃
第 1 回女性獣医師会意見交換会	平成 28 年 8 月 17 日 (水)	〃
第 2 回女性獣医師会意見交換会	平成 29 年 2 月 15 日 (水)	〃

7) 学会関係

地区学会幹事会議	平成 28 年 7 月 1 日 (金)	北獣会館
----------	---------------------	------

7. 各種規程、要領等の制定および改定について

第 4 回理事会において ・獣医学術北海道地区学会運営規程の一部改定

8. 北獣会館の建設について

現北獣会館は、昭和 53 年に建設したもので、築後 39 年を経過しており、老朽化が進んでいるとともに、耐震性についても課題を抱えている現状にある。

この状況をうけ平成 26 年度から理事会に建設計画検討特別委員会を設置し、今後の本部事務所のあり方も含め検討してきた。この委員会報告を受け、理事会でさらに検討を重ねた結果、平成 40 年度を目処に会館を建て替えることとし、資金調達計画は別途検討することとした。このことを第 4 回代議員会に提案したが、会館建設について資金調達計画が示されていないこともあり、会員の理解が十分に進んでいないと判断し提案を取り下げた。

その後、特別委員会、理事会で検討を重ね、今後下記のとおり進めることとした。

本会創立 80 周年にあたる平成 40 年度を目処とした会館建替えに向け、会員の理解を深めるとともに、資金調達計画等の検討を進める。

当面の対策として、賛助会員への加入促進を積極的に進めるとともに、公益法人への寄附税制を活かした寄附金制度の立ち上げ等により財政基盤の強化を図ることとした。

9. 弁護士との顧問契約について

札幌市内で法律事務所を開設している橋本智弁護士（橋本智法律事務所 Tel 011-272-1056）と平成 28 年 1 月から顧問契約を締結し、会員の法的な事案に相談対応できる体制を継続している。

10. 広報活動

情報化社会に対応し、本会ホームページ等による広報活動の充実強化が求められていた。ホームページの全面的なリニューアルを契機に、会員への情報伝達の充実を図るとともに、一般市民を対象とした本会の活動紹介、動物病院の紹介等の充実強化に努めた。

II 事業報告

公益目的事業 1：獣医学術の振興・普及並びに人材の育成を図る事業

1. 獣医学術北海道地区学会・北海道獣医師大会の開催

1) 獣医学術北海道地区学会の開催

①平成 28 年度獣医学術北海道地区学会は 9 月 1、2 日、旭川市大雪クリスタルホールにおいて開催した。8 月 30 日から 31 日にかけて台風 10 号による豪雨で十勝、上川南部、道南、日高に大きな被害をもたらされた。これによる鉄路、道路の寸断により一部参加出来ない会員も出たが、会員および会員外 550 名、来賓・関係機関、公開シンポジウム参加者など 119 名、合計 669 名の参加を得、上川支部等道北 4 支部や学会幹事を中心とした会員の協力により整齊と運営された。

②1 日午後、公衆衛生学会（野生動物）開催による市民公開シンポジウム「動物園獣医学の現状と課題～動物園動物の福祉向上を目指して」と三学会共同開催によるシンポジウム「One Health から薬剤耐性菌問題を考える－獣医療と医療における耐性菌の現状と課題－」が開催され、多くの先生方が参加された。

③一般の発表演題は産業動物獣医学会 99 題、小動物獣医学会 41 題、獣医公衆衛生学会 20 題、合計 160 題がエントリーされた。豪雨の影響による交通網の乱れで、遅れた方、参加出来ない方が出たが、発表順を変更するなど学会役員の適切な対応により、影響を最小限に留めることができた。結果的には産業動物獣医学会で 7 名の方が講演できず、うち 4 演題が発表取り消しとなった。

④両日の昼休みには、協賛会社の協力のもと 6 会場でランチョンセミナーを多彩な内容により実施した。

⑤各地区学会長賞、北獣会長賞、奨励賞については、学会終了後に開催された審査会において慎重に審議され、次のとおり選定された。

【平成 28 年度北海道地区学会優秀発表演題と発表者】

日本産業動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会長賞】

「農場環境材料を用いた牛ヨーネ病サーベイランスの検討」

○榊原伸一¹⁾ 菅野 宏²⁾

1) 十勝家保 2) 渡島家保

「起立不能を伴う心臓破裂を呈したホルスタイン種初産乳牛の 1 症例」

○村上賢司 加治原彩子 前田啓治 松頭力蔵 滝口滋良

中空知 NOSAI

「リピートブリーダーとされる牛における子宮内膜炎の発生状況およびリスク因子解析」

○八木沢拓也 竹原義昌

上川中央 NOSAI

「サラブレッドの完全骨折の LCP 固定」

○樋口 徹 井上 哲 佐藤正人 後藤忠広

NOSAI 日高

【北海道獣医師会会長賞】

「地下水位が高い埋却地におけるベントナイトを用いた止水方法の検証実験」

○安倍秀美¹⁾ 立花 智²⁾ 増子朋美³⁾

1) 胆振家保 2) 十勝家保 3) 網走家保

「飼養管理改善を中心とした対策が奏功した呼吸器病多発黒毛和種農場の 1 事例」

○中田理美¹⁾ 小林玲欧那¹⁾ 山中俊嗣¹⁾ 小川栄仁²⁾ 宮根和弘²⁾

1) 上川北 NOSAI 2) 上川家保

【奨励賞】

「成乳牛で集団発生したマイコプラズマ性肺炎の臨床病理学的所見と対策」

○土屋翔太郎¹⁾ 横田 修²⁾ 川本 哲¹⁾ 大塚浩通¹⁾ 樋口豪紀³⁾

小岩政照¹⁾

1) 酪農大生産動物医療学 2) エフサイド 3) 酪農大衛生・環境学

「育成子牛の重度肺炎の超音波画像と臨床病理学的所見との比較」

○阿久澤一貴 川本 哲 鈴木一由 小岩政照

酪農大生産動物医療学

日本小動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会会長賞】

「頭蓋内腫瘍性病変の犬 64 例における放射線治療成績と予後因子の解析」

○細谷謙次¹⁾ 金 尚昊¹⁾ 出口辰弥¹⁾ 星 清貴²⁾ 武内 亮²⁾ 坂本英一²⁾

華園 究²⁾ 石塚友人²⁾ 柄本浩一³⁾ 星野有希²⁾ 高木 哲²⁾ 奥村正裕¹⁾

1) 北大獣医外科学 2) 北大附属動物病院 3) えのもと動物病院

「前肢義足を適応した犬の 3 症例」

○椿下早絵¹⁾ 廉澤 剛²⁾ 遠藤能史²⁾ 松原裕幸³⁾ 伊藤暁史²⁾ 丹羽昭博⁴⁾

小倉美咲⁵⁾ 坂巻彩夏⁵⁾

1) 酪農大獣医保健看護学 2) 酪農大伴侶動物医療学 3) 北科大義肢装具学

4) 酪農大附属動物医療センター 5) 酪農大院獣医学

【北海道獣医師会会長賞】

「前頭洞副鼻腔炎に合併した頭蓋内感染による脳ヘルニアを疑う猫の 2 症例」

○酒田尚志¹⁾ 松野正行¹⁾ 富永牧子¹⁾ 立石耕右¹⁾ 浅井雄飛¹⁾ 氏家葉月²⁾

川瀬広大²⁾ 柄本浩一¹⁾

1) えのもと動物病院 2) 札幌夜間動物病院

「大腸血管拡張症の犬の1症例」

○竹内恭介¹⁾ 大田 寛²⁾ 高木 哲¹⁾ 中島彩乃¹⁾ 佐々木 東²⁾ 森下啓太郎¹⁾
中村健介¹⁾ 滝口満喜²⁾

1) 北大附属動物病院 2) 北大獣医内科学

【奨励賞】

「猫の全身麻酔導入時の安全な気管挿管のためのロクロニウム併用」

○佐藤敬近¹⁾ 石塚友人³⁾ 金 尚昊¹⁾ 星野有希²⁾ 細谷謙次¹⁾ 高木 哲²⁾
奥村正裕¹⁾

1) 北大獣医外科学 2) 北大先端獣医療学 3) 北大附属動物病院

日本獣医公衆衛生学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「ヒスタミンによる食中毒防止について

～発泡スチロール容器使用上の注意点～

○大西広輔¹⁾ 尾崎誠人²⁾ 笠井ちあき²⁾ 似里浩志²⁾

1) 旭川市食肉衛検 2) 旭川市保健所

【北海道獣医師会長賞】

「豚の湯はぎ処理方式と畜における枝肉汚染制御について」

○石田祥士 田畑文規

日高食肉衛検

【奨励賞】

「家畜糞便中の薬剤耐性菌および耐性遺伝子に対する堆肥化の影響」

○吉澤頌樹¹⁾ 臼井 優¹⁾ 福田 昭¹⁾ 樋口豪紀¹⁾ 浅井鉄夫²⁾ 岡本英竜³⁾
田村 豊¹⁾

1) 酪農大衛生・環境学 2) 岐阜大院連合獣医学 3) 酪農大循環農学

2) 第67回北海道獣医師大会の開催

①第67回北海道獣医師大会は9月1日（金）アートホテルズ旭川を会場に、砂原和文日獣副会長、北村直人日獣政連委員長ほか多数の来賓を迎え盛会裡に開催された。

②大会では、行政部会・産業動物臨床部会共同提案として「北海道の酪農・畜産を守るためー飼養管理基準の遵守に向けてー」、野生動物部会提案として「人と野生動物の共存、生物多様性保全のための獣医療の貢献～保全医学の観点を踏まえた取り組み」の2提案を満場一致で決議した。

③大会に引き続き、前年度地区学会優秀発表表彰、北獣会誌投稿優秀論文表彰、狂犬病予防事業顕彰および学位（博士号）取得者顕彰を行った。狂犬病予防事業顕彰者および学位取得顕彰者は次のとおり。

狂犬病予防事業顕彰者

江藤 公明（石狩支部） 石田 修（石狩支部） 平山 達行（上川支部）

田中 忍（胆振支部） 中川 光義（十勝支部） 池田 博（オホーツク支部）

学位（博士）取得顕彰者

藪崎 梨沙（早来食肉衛生検査所）

論文題目：ビスフェノールAとその類似物質の代謝動態について

村瀬 晴崇（JRA 日高育成牧場）

論文題目：ウマにおける胎子検査法および抗ミューラー管ホルモンを用いた性腺異常の診断に関する研究

原田 健弘（日高家畜保健衛生所）

論文題目：サラブレッド種雌馬の生殖周期各ステージにおける内分泌調節機構に関する研究

草場 信之（北海道NOSA I）

論文題目：乳牛におけるマイコプラズマ性乳房炎の発生疫学に関する研究

福井 大祐（En Vision 環境保全事務所）

論文題目：動物園における野生生物と飼育動物の新興感染症の診断、疫学調査およびバイオセキュリティ対策による制御

寺本 英司（新千歳動物病院）

論文題目：犬外耳道からの *Malassezia Pachydermatis* 分離法および分離菌株の分子系統解析と生物学的活性について

3) 第30回世界牛病学会 2018 札幌の開催について

第30回世界牛病学会 2018 札幌を下記のとおり開催することとして、第30回世界牛病学会 2018 組織委員会を立ち上げ、開催準備に入った。組織委員長には、酪農学園大田島先生が就任するとともに、本会からも三役等が委員会、部会に参画し学会の成功に向け全面的に協力することとした。

世界牛病学会は、牛の獣医学に関する国際学会として 1960 年に設立され、現在世界の 50 カ国が加盟している。学会は、2 年に一度、世界各地で開催され、毎回、60-70 カ国から 2000-3000 名の獣医師が参加しており、世界および開催国の牛獣医療の進歩に貢献している。

開催会場：札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目）

開催日時：2018 年 8 月 28 日（火）～9 月 1 日（土）

参加者数（想定）：約 50 カ国・地域 約 2,000 名（海外 1,400 名、国内 600 名）

主催：第30回世界牛病学会組織委員会、日本獣医師会日本産業動物獣医学会

共催：北海道獣医師会

2. 北海道獣医師会雑誌の発行について

獣医学術の振興・普及および諸行事の案内、活動報告等の情報提供の媒体として北海道獣医師会雑誌を毎月定期に発刊した（第 59 巻第 4 号～12 号および第 60 巻第 1 号～第 3 号）。また、会誌編集委員会において、前年度本会誌に掲載した学术论文から優秀なものとして次の 3 編を選定し、第 67 回獣医師大会において顕彰した。

平成 27 年度北海道獣医師会雑誌優秀論文表彰

産業動物獣医学部門

「主に妊娠率に着目し繁殖問題を解決した農場の 1 例」(短報)

大脇 茂雄 (NOSAI オホーツク北見家畜診療所)

「黒毛和種新生子に見られた Chilled Calf の 3 症例」(短報)

小松 勝一 (NOSAI いぶり東部家畜診療所)

小動物獣医学部門

「フェレットのインスリンノーマ 16 症例の回顧的調査」(短報)

大橋 英二 (あかしや動物病院)

3. 国際交流について

本会は相互の獣医学術の向上と交流を深め、互いに発展することを目的として、韓国の慶尚北道獣医師会と姉妹提携を結んでいる。

昭和 54 年の訪韓以降、これまで数年間隔でそれぞれ 6 回訪問しあって交流してきた。25 年に本会が韓国慶尚北道を訪問しており、今度は本会が招聘する順番になっているが、韓国において口蹄疫等の伝染病の発生が継続していることから 28 年度の招聘は見送った。

4. 北海道医師会との学術協力連携について

高病原性鳥インフルエンザをはじめ多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まる中、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められている。

このような状況を受け、日本獣医師会は、平成 25 年 11 月にこの理念に基づき、学術協力を推進する旨の協定書を締結し、連携シンポジウム等を開催している。

本会も昨年 3 月、北海道医師会と協定を締結した。本年 4 月 16 日(日)に北海道医師会館において「One Health から見た薬剤耐性菌問題」に関する公開シンポジウムを開催することとし、準備活動を進めている。

5. 技術向上に係る講習会、研修会の開催について

本部主催として小動物講習会、獣医公衆衛生講習会、管理獣医師講習会および野生鳥獣救護技術講習会を開催するとともに、支部主催により産業動物・小動物ブロック講習会、新技術講習会を実施した。また、地区獣医師会や関係団体の主催する研修会、講習会等に後援・協賛し、支援した。

開催状況は添付諸表資料 3 のとおり。

公益目的事業 2：人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する事業

1. 狂犬病予防注射事業の推進について

1) 狂犬病予防注射事業は本会の主体となる公益目的事業として、各支部実施班の協力

のもとで実施したが、その注射頭数は179,453頭（前年比 7,487頭減）で、ここ数年減少傾向が続いている（支部別注射頭数は添付諸表資料4のとおり）。

これに対応するため、小動物臨床部会、行政部会連携により小委員会（ワーキンググループ）を設置し、狂犬病予防注射実施率向上対策を検討した。その活動の一つとして、北海道、札幌市、動物愛護団体等と連携のもと札幌チカホ空間で狂犬病予防注射啓発イベントを開催すべく準備を進めている。

- 2) 狂犬病予防事業に係る事故について、ワクチンによる副反応事故についても、北獣狂犬病予防注射事故対策要領に沿って補償することとしている。平成28年度には犬の事故は死亡1頭、回復38件の報告があった。犬の事故は多くはアナフィラキシー反応だが、犬の飼養者個々にチラシ等で注意喚起するなど、きめ細かい対応がなされ、それぞれ支部実施班で適切に対応された。なお、死亡例は注射直後の発症であり、アナフィラキシーショックが疑われるが、剖検出来なかったことから確定には至っていない。
- 3) 狂犬病予防注射業務に永年にわたり尽力された6名の会員に対し、北海道獣医師会長表彰を行い、その功績を称えた。
- 4) 現状の狂犬病ワクチンは1バイアル10ドース分であることから、バイアル開封後の日数経過等により廃棄を余儀なくされる。ワクチンメーカーに対し、1バイアル1ドース製品の開発、供給を要請している。なお、このことは日獣の狂犬病予防体制整備特別委員会でも検討され、同様の要請がなされている。

2. 動物愛護の推進について

- 1) 北海道から委託を受け実施している野生傷病鳥獣保護業務について、会員動物病院などの協力を得て78病院、374頭羽（前年比44頭羽減）の傷病鳥獣の診療、救護費用を補填した。

また、野生動物部会の先生方の協力を得て、これら野性傷病鳥獣の診療技術向上のため技術講習会を札幌（円山動物園）、釧路（釧路湿原野生生物保護センター）において開催した。また、札幌では円山動物園において一般市民を対象に外来生物をテーマにした野生動物講演会を開催した。

- 2) 同じく北海道から委託を受け実施している所有者の判明しない犬猫などの診療、保護委託業務では54病院、354頭（前年比8頭減）の保護・診療費用の一部を補填した。

札幌市（札幌小獣が受託）、旭川市、函館市においても、それぞれ市からの受託により同事業を実施し、それぞれ13病院28頭、4病院8頭、1病院2頭の保護治療を行った。

- 3) 8月札幌市内デパートにて開催された小学生を対象にした仕事体験イベントの「夏休み！こども体験アカデミー」に出展し、子供たちの動物愛護や獣医師の仕事に対する理解を深めた。

収益事業1：不動産賃貸事業

1. 所有地の貸付け

本会が発寒に所有する土地（670m²）を駐車場用地として（株）コラボに貸付けした。

2. 所有建物の貸付け

北獣会館の事務室スペースは家畜畜産衛生指導協会、さっぽろ獣医師会、札幌市小動物獣医師会、日本馬事協会北海道事務所に貸付けするとともに、会議室は各種会議、研修会等に貸付けを行った。

収益事業2：共同購入事業

会員が業務上必要とする各種様式印刷物や診断薬を一括購入し、斡旋販売した。

その他事業1：福利厚生事業

「福利厚生規程」にもとづき、病気見舞金、弔慰金および生花をそれぞれ添付諸表資料5のとおり贈呈した。

その他事業2：受託事業

1. 狂犬病予防注射済票交付事業

道内 176 市町村市から委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、市町村にかわり、狂犬病予防注射を受けた犬の飼養者に対し、狂犬病予防注射済票の交付を行った。

飼養者が居住していない市町村で狂犬病予防注射を受けた場合、注射実施者、責任者や各支部事務局の協力により、狂犬病予防注射済証を当該自治体に送付する事業を実施した。

2. 犬の登録及び鑑札交付事業

道内6市から委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、狂犬病予防注射時に市町村に代わり犬飼養者の便宜のため犬の登録受付及び鑑札の交付を行った。

3. 国際交流事業

北海道・大学・NOSAI などの関係機関の協力を得て18年間に渡り、実施してきた開発途上国獣医師を対象とした「産業動物の獣医技術研修」（（独）国際協力機構（JICA）の委託）が25年度を持って終了した。JICAより、キルギス共和国からの産業動物臨床研修受入について打診があり、受け入れ承諾で返答したが、本会受入とはならなかった。

4. 動物愛護週間における啓発活動

札幌市小動物獣医師会が主催する「人とペットの暮らし広場2016」、江別市小動物開業獣医師会が主催する「2016動物愛護フェスティバルinえべつ」、胆振獣医師会が主催する「胆振動物愛護フェスティバル」等の行事に協賛するとともに、日本獣医師会が主催する「動物感謝デーin Japan 2016」に協賛し、動物愛護思想の普及啓発に努めた。

5. 海鳥等保護対策事業

天売島において野良ネコが増加し、この影響で稀少な海鳥が激減している。この海鳥保護のため、羽幌町等からの委託を受け、不妊去勢手術、馴化、譲渡等で野良ネコを減

少させる事業を実施している。

これらの活動は、環境省、道庁、羽幌町、本会、北海 DO ぶつネット等による「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会（会長：高橋 徹北獣会長）を立ち上げ関係機関連携のもとに活動を進めている。

これまでに野良ネコ 139 匹を捕獲し、うち 126 匹を島外に搬出している。平成 28 年度はドブネズミによる被害拡大により、ネコの捕獲作業を中断したため、捕獲数は 14 頭に留まった。